「研究大学強化促進事業」令和元年度フォローアップ結果

機関名	令和元年度フォローアップ結果
東北大学	○URA の機能強化が研究力向上の幹として位置付けられており、URA の職務内容、人材登用、育成体制の強化が明確にされていることは評価される。研究力強化、産官学連携等の将来構想の実現に向けて、関連部局との連携がなされ、優れた研究力を有する大学を目指す取り組みが着実に行われていることについても評価される。また、アンダー・ワン・ルーフ構想に基づく産学連携推進体制を一地域に集約し、構築していることは、今後十分成果が期待できる取り組みである。 ○「知のフォーラム」における国際アドバイザリーボードも十分機能しており、若手研究者の育成にその成果が期待される。 ○URA 育成のために実施している「重点化スキル育成コース」を、近隣地域を含む国内の他大学に対しても情報提供しており、モデルケースとして期待される。

平成 30 年度フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	東北大学				
統括責任者	役職	総長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長（研究担当）、研究推進・支援機構長
	氏名	大野　英男		氏名	早坂　忠裕

平成 30 年度フォローアップ結果
○URA の職務内容が急激に広がり学内外に認知されていることが強く窺われ順調に成果を上げていることが確認できた。 ○一方で、学生・若手の研究力強化策については、説明会開催・ベンチマーク大学への派遣・テニュアトラック制度策定等が考えられているが、まだ道半ばである。将来構想「世界から尊敬される三十傑大学としての優れた研究力」を支えるベースがここにあることを考えると、更にスピードアップを図ることが望まれる。 ○アンダー・ワン・ルーフ構想に基づく新しい産学連携推進体制の構築に期待したい。 ○「国際混住型学生寮」はどれくらいの効果があるのか分析をしてもらいたい。

将来構想の達成に向けた現状分析
将来構想 1 【世界から尊敬される三十傑大学としての優れた研究力】
①　平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況 ・平成 30 年度フォローアップ結果等コメントを受け、特別研究員制度に関する学部学生への支援策を検討し、学部学生を対象とした特別研究員制度の基本的な情報を解説したパンフレットを作成し広く配布した。また、学部学生も対象とした平成 31 年度特別研究員制度説明会では、新たな試みとして個別相談会を実施した。 ・平成 30 年 10 月より国際混住型学生寮の運営が開始されており、世界中の優れた学生が集まるキャンパスを目指し留学生の受け入れを開始した。また、現在、国際混住型学生寮を活用した更なる国際交流活発化を通した研究力強化を目指し、例えばサマースクールや国際学生交流のために夏休みや春休みといった長期休み期間訪問者らの宿泊施設や、集中講義やワークショップに海外から優れた研究者を招へいする際の宿泊施設として利活用するための仕組みについて検討を開始している。 ・知のフォーラム「国際アドバイザリーボード」は知のフォーラムの事業運営の評価と助言を行い、それにより知のフォーラムのプログラムテーマの審査・採択を行うこととしている。これらの役割についてロードマップ及びロジックツリーから明確に読み取れないとのコメントを受け、ロードマップ及びロジックツリーの文言を修正している。
②　現状の分析と取組への反映状況 ・「全学的 URA 機能の強化」: （現状）全学的に掲げる「世界三十傑」構想に基づく諸課題に対し、URA に期待する具体的能力・機能を強化するために URA 連携協議会メニューを検討し、フル活用した。また、URA 認定制度への対応について検討を開始した。 （反映）URA に期待する具体的能力・機能を強化するため、また活躍の場を更に広げるために、機能面での全学的な URA の連携体制強化を目的として、シニア URA を中心とした新体制の構築について検討を行っている。各 URA が体得したスキルに応じた URA 資格認定制度への対応も踏まえた URA 教育・評価制度の見直しを

検討している。更に、文献データベースの利用権限を本学構成員に拡大し、本部 URA による部局 URA 等を対象とした分析調査方法の説明会を開催し、スキルアップを図ると共に、各部局 URA が所属部局の研究力指標の分析を行い、部局における研究力強化戦略策定へフィードバックすることを目指す。

・アンダー・ワン・ルーフ構想に基づく新しい産学連携推進体制の構築：
（現状）平成 30 年 10 月より青葉山新キャンパス内に、東北大学ベンチャーパートナーズ（株）（VC）、（株）東北テクノアーチ（TLO）、東北大学未来科学技術共同研究センター（NICHe）、及び東北大学産学連携機構を集約した産学共創拠点の運用を開始し、産学共創拠点を最大限に活用するよう URA も含めた組織体制の再構築を進めている。
また、産学共創拠点を構えることで、産学連携による研究・教育活動の全学的な支援が活性化し、URA センター及び部局 URA 等による情報・ノウハウの共有化が進み、部局及び産学連携機構による横断的な取組みについて企画立案を開始した。
（反映）アンダー・ワン・ルーフ構想に基づき産学連携機構が青葉山地区に移転し、産学連携推進体制を集約したことに対応し、本部 URA においてうち産学連携担当者数名の居室を青葉山地区にも設け、産学連携機構企画室を中心に URA と産学連携機構との連絡調整を行う仕組みを構築した。さらに、部局・センターなどの各産学連携担当者(URA を含む)の情報共有を図るため、新たに産学連携リエゾンネットワークを構築し、定期的な情報交換を行うこととした。
また、部局 URA 及び産学連携担当 URA による企画立案を中心として、例えば EDGE-NEXT 事業においては、異なる学術領域の学生や研究者を対象に、起業家教育、起業家精神を醸成する起業家等（VC や事業会社など）によるセミナー、アントレプレナーシップ醸成から繋がるイノベーションに関するイベント（講演会、ワークショップ等）の実施を企画することとしている。また、URA が従来から行ってきた研究及び研究拠点の企画・運営支援や産学連携支援を基に、産学共創拠点を活かして学内横断的な取組みを必要とする複数の事業提案を行うこととした。
・学生・若手の研究力強化策：
（現状）学生及び若手に関する研究ステータスの基本情報を収集し、学生及び若手の支援策について検討した。研究力向上には、若手、特に博士課程学生の研究アクティビティを向上させることが肝要であり、学生の博士課程進学を促進させるための一助として、大学院学生及び学部学生を対象とした特別研究員制度の説明会を行った。文系部局担当の URA により採用者・不採用者と研究実績等の相関について分析が行われ、制度説明会資料へのフィードバックを行っている。また、「ロジックツリー・ロードマップへのコメント」に対応するため、特別研究員制度説明会の対象を学部学生へ拡大するとともに、学部学生の特別研究員制度の理解を促すことが重要であることから、同制度の基礎情報まとめたパンフレットを作成し配布するなど、学生・若手の研究力強化のスピードアップを図った。
（反映）令和元年度においても、学生及び若手の支援策について、大学院学生及び学部学生を対象とした特別研究員制度の説明会やパンフレット配布等を引き続き実施するとともに、文系部局に所属する学生への支援を強化するため、文系部局担当の URA を中心に応募支援策について検討し、実施することとした。

・自立的な研究環境の提供を前提とした優秀な若手研究者のポスト確保：
（現状）平成 30 年度に東北大学版テニュアトラック制度を創設した。
（反映）令和元年度より本制度の運用を開始し、優秀な若手研究者ポストの確保を目指している。また、本制度の理解を深めてもらうことが肝要となるため、学際科学フロンティア研究所所属の URA が中心となり学外向けの広報戦略について検討するとともに、関係部局と連携し本制度の課題の洗い出しを行うこととしている。

・「世界三十傑大学」に相応しい国際水準キャンパスの実現に向けた取り組み：
（現状）国際水準キャンパスの達成指標として留学生比率（大学院生）（指標（13））を設定している。指標設定年度時、968 人規模の国際混住型学生寮に留学生が 375 人入居可能となっていたが、指標（13）の成果目標達成のためには 1800 人規模へ拡充し、留学生の入居可能数を 370 人程度増加させる必要であると考えた。平成 30 年度は国際混住型学生寮の運用が開始され、留学生比率の増加に寄与している。
（反映）国際混住型学生寮は、将来の優れた研究者としての寮生、すなわち「人財」に加え、国際人財交流インフラ、すなわち「施設」としての活用を計画している。留学生との協働が当たり前のキャンパス環境を整備すると共に、世界の研究者がサバティカルビレッジとして、例えば、夏休み期間の１～２カ月を国際共同研究のために滞在可能となるよう、学生寮の管理責任者である教育担当理事との間で制度設計の検討を開始している。

ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況
全学委員会である研究大学強化促進事業実施委員会において、本ロジックツリー・ロードマップが常に共有され、本学が目指すべき方向性を全学的に共有している。また、各取組の担当教員や担当部署へも共有され、次年度の実施計画を策定する際に活用している。 更にロジックツリーの指標の中には、部局評価の評価指標項目として使用されている指標もあり、各部局においても PDCA サイクルを回すため活用されている。

特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）
A メニュー １）全学の部局 URA が参加する「URA 連携協議会」を定期開催し、URA センターと部局の間のネットワークを通じて、支援や企画のノウハウを共有できた。これにより研究支援に留まらず、研究推進に資する競争的資金獲得、成果の社会還元に向けたアウトリーチ、実用化事業に向けた産学連携など多層化した支援へと展開できている。 ２）本部シニア URA が主導し本事業により実施している「URA 連携協議会」や「スキルアップセミナー」を補完する形で、若手 URA を対象とした「URA 勉強会」を開始した。本勉強会により若手 URA のキャリアパスを見据え、URA としての総合的なスキルアップを図るとともに、シニア URA のロールモデルを紹介することで若手 URA のモチベーション向上にも貢献している。 ３）これまで本部 URA を中心に行っていた「研究力分析」の様々な手法(特に各種データベース分析ツール)を全学に公開し、個々の教員・研究者が自分の研究状況を客観的に把握し、部局運営や研究室運営などに反映できるようにした。同時に分析ツールの利用法や活用事例を全学の URA や関係者に講習し、特に関心の強い URA を中心に勉強会を設け、Python による分析プログラム作成など高度な分析技術の全学的普及を進めている。これにより各部局単位でも名寄せ等のデータ処理を行い、研究力指標の経年変化や強み・弱み等の分析ができ、現場での研究戦略に生かされている。 ４）新たに企業出身の中堅・若手 URA を内閣府 CISTI や JST の PM 育成研修等へ派遣し、OJT による新たなスキル育成を行っている。その成果をスキルアップセミナーで全学 URA にも共有し、更に URA の認証制度に向けた本学 URA の教育・評価制度の検討に活用している。 ５）弁理士出身の知財担当 URA に一般向けの知財解説書を上梓し、知財化促進啓発活動と URA アウトリーチに具体的に貢献した。

Bメニュー

１）若手リーダー長期海外派遣プログラムの実施経験者を対象に、派遣先機関との帰国後の連携状況、連携強化のために要望する支援策等をヒアリングした。同プログラムは、派遣期間中における当該若手教員の研究活動成果や経験値向上のみではなく、むしろ派遣先機関をKey-Stationとした研究の世界展開に期待するところが大きいため、帰国後のフォローアップは本事業後半部分での極めて重要な戦略につながるものである。

２）知のフォーラムを企画・実施する知の創出センターにおいて、副センター長は中心的な役割を果たす重要ポストである。今後も魅力あるテーマについて、各プログラムを開催していくために、長期的視点に立って次期副センター長人事に着手した。

３）女性研究者及び女子博士課程学生の研究力向上や活動支援、また女性研究者の増加を目的に、女性URAが企画・運営の中心となり研究スキルアップ研修会や女性研究者と女子学生の交流会を実施した。

その他

これまで教員への科研費の申請支援を実施してきたが、新たに技術職員による研究支援力向上策およびボトムアップ策として、技術職員による科研費申請のための相談会を部局レベルで開始した。技術職員自らの研究資金獲得に加え、モチベーションの大幅な向上が期待される。

【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus		WoS	
	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2013-2017 平均	2014-2018 平均
国際共著論文率	31.8%	32.5%	%	%
産学共著論文率	5.5%	6.4%	%	%
Top10%論文率	13.8%	13.0%	%	%

公表

東北大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】

将来構想	事業終了までのアウトカム（2021年度-2022年度）	中間的なアウトカム（2019年度-2020年度）	アウトプット（2019年度の取組）	アウトプット（2018年度の取組）
世界から尊敬される三十傑大学としての優れた研究力	**本事業で策定・実施した諸戦略の具現化による研究力の向上** 指標(1)：自主財源によるURA配置数 指標(2)：国際共著論文比率 資料(3)：Top10%論文 資料(4)：民間企業等との共同研究数 資料(5)：共同研究部門・講座設置数 資料(6)：ライセンス収入	**「世界三十傑」構想に基づく全学的URA機能の強化** 指標①：スキルアップしたURAによる研究成果の向上	URA連携協議会の開催	URA連携協議会の開催
			スキルアップセミナー、スキル育成コースの実施	スキルアップセミナー、スキル育成コースの実施
			URAセンターの機能強化に向けた新体制の構築	
			URA認定制度等への対応を踏まえたURA教育・評価制度の見直し	
			論文データベースの全学への利用権限拡大及び部局URAへの分析調査方法の研修等の実施	部局URAへの分析調査方法の研修等の実施
		アンダー・ワン・ルーフ構想に基づく新しい産学連携推進体制の構築 指標②：研究成果の社会実装を加速するための新しい産学連携インフラ整備	シニアURAによる若手URAの指揮・指導・育成の施策と制度設計	シニアURAによる若手URAの指揮・指導・育成の施策と制度設計
			産学官連携活動におけるコーディネーターとしての支援（各産学官連携活動拠点としての東京サイトの運営）	産学官連携活動におけるコーディネーターとしての支援（各産学官連携活動拠点としての東京サイトの運営）
			シニアURAによる研究企画推進戦略の構築	シニアURAによる研究企画推進戦略の構築
			（CSTI、SciREX、GRIPS、NISTEP等の）政府官公庁等・企業・ファンディングエージェンシー等との情報交換、企画提言・折衝活動、及び外部資金の獲得や運用のための新たな制度設計	（CSTI、SciREX、GRIPS、NISTEP等の）政府官公庁等・企業・ファンディングエージェンシー等との情報交換、企画提言・折衝活動、及び外部資金の獲得や運用のための新たな制度設計
			研究力の分析、技術動向分析による研究戦略の立案・提言	研究力の分析、技術動向分析による研究戦略の立案・提言
			技術相談、企業へのスタートアップシーズのアウトリーチ活動	技術相談、企業へのスタートアップシーズのアウトリーチ活動
			大型研究プロジェクト企画提案活動（ムーンショット型研究開発制度、COI－STREAM、OPERA、EDGE－NEXT、BIP事業等）	大型研究プロジェクト企画提案活動（COI－STREAM、OPERA、EDGE－NEXT、BIP事業等）
			大型科研費等採択率向上を目的とした模擬ヒアリング、若手研究者を対象とした科研費申請書書き方相談、学部・大学院学生を対象とした特別研究員制度説明会等の実施と更なる取組の検討	大型科研費等採択率向上を目的とした模擬ヒアリング、若手研究者を対象とした科研費申請書書き方相談の実施と新たな取組の検討
			大学発ベンチャー育成、アントレプレナー教育の企画・立案	大学発ベンチャー育成、アントレプレナー教育の企画・立案
			論文執筆セミナー開催、論文コンプライアンス教育セミナー開催	論文執筆セミナー開催、論文コンプライアンス教育セミナー開催
			URAセンターWEBサイトの運営、内容の検討による広報活動強化	URAセンターWEBサイトの運営、内容の検討による広報活動強化
			ベンチマーク大学の調査、研究戦略に沿った新たなベンチマーク大学の設定、海外ネットワーク構築	ベンチマーク大学の調査、研究戦略に沿った新たなベンチマーク大学の設定、海外ネットワーク構築
			URA業務支援事務担当国際事務職員配置による国際対応力強化	URA業務支援事務担当国際事務職員配置による国際対応力強化

強化された国際コミュニティを活用した国際的研究ステータスの向上

指標(2)	国際共著論文比率
指標(7)	ベンチマーク大学からの受入研究者数
指標(8)	国際共同・受託研究等契約数

世界のトップ研究拠点に深く食い込む多様性に富んだ若手研究者の増加

指標(9)	ベンチマーク大学への若手リーダー派遣者数
指標(10)	女性研究者比率
指標(11)	高等研究機構への若手研究者配置数

世界三十傑大学に相応しい教育・研究環境の整備

指標(12)	外国人教員数
指標(13)	外国人留学生比率(大学院)
指標(11)	TOEICスコア700点以上の事務職員等数

海外拠点を活用した国際共同研究の推進

指標③	ジョイントリサーチセンターでのPD確保

学生・若手の研究力強化策の実施

指標④	学部学生を対象とした特別研究員制度説明会等支援策の開始

自立的な研究環境の提供を前提とした優秀な若手研究者のポスト確保

指標⑤	東北大学版テニュアトラック制度の開始

国際水準キャンパス実現に向けた取り組み

指標⑥	国際混住型学生寮の拡充

知のフォーラムの実施、及びそれを契機とした国際共同研究等のコーディネーターとしての支援	知のフォーラムの実施、及びそれを契機とした国際共同研究等のコーディネーターとしての支援
シンポジウム及びワークショップ開催	シンポジウム及びワークショップ開催
知のフォーラムの活動をPRするホームページの更新等による情報発信	知のフォーラムの活動をPRするホームページの更新等による情報発信
スポンサー獲得体制や、社会に活動を反映するための仕組み・制度設計（オランダローレンツセンターとの相互訪問を契機とした共同研究や欧州への広報等）	スポンサー獲得体制や、社会に活動を反映するための仕組み・制度設計（オランダローレンツセンターとの相互訪問を契機とした共同研究や欧州への広報等）
知のフォーラムの事業運営の評価と助言を行う「知のフォーラム国際アドバイザリーボード」の助言に基づく令和3年度知のフォーラムの国際公募・採択	国際アドバイザリーボードの助言に基づく平成32年度知のフォーラムの国際公募・採択
海外活動を支援するポスドクの確保	海外活動を支援するポスドクの確保
海外パートナー機関との人的交流の一層の促進	海外パートナー機関との人的交流の一層の促進
国際広報の充実（国際広報センター設置、EurekAlert! による情報発信、英語版Webサイト、研究ニュースの広報等）	国際広報の充実（国際広報センター設置、EurekAlert! による情報発信、英語版Webサイト、研究ニュースの広報等）
海外リサーチ・ステーション、国際ジョイントラボ設置推進	海外リサーチ・ステーション、国際ジョイントラボ設置推進
若手リーダー研究者海外派遣プログラムの実施とフォローアップ調査を踏まえた今後の戦略的実施の検討	若手リーダー研究者海外派遣プログラムの実施とフォローアップ調査を踏まえた今後の戦略的実施の検討
学際科学フロンティア研究所に採用された若手研究者の雇用・育成	学際科学フロンティア研究所に採用された若手研究者の雇用・育成
東北大学版テニュアトラック制度の運用による優秀な若手研究者のポスト確保	部局との連携によるテニュアトラック等のキャリアパスの構築の検討
若手研究者武者修行インターンシップの実施	若手研究者武者修行インターンシップの実施
ジュニアリサーチプログラムの実施	ジュニアリサーチプログラムの実施
クワトロセミナーの実施	クワトロセミナーの実施
女性研究者育成活躍・支援策の企画・提言	女性研究者育成活躍・支援策の企画・提言
FALLING WALLS LAB SENDAI、Falling Walls Venture の実施	FALLING WALLS LAB SENDAI、Falling Walls Venture の実施
国際対応事務体制の整備・推進	国際対応事務体制の整備・推進
事務文書の英語化	事務文書の英語化
学内文書日英対訳データベースによる対訳文書の全学共有化の推進	学内文書日英対訳データベースによる対訳文書の全学共有化の推進
リサーチレセプションセンター機能をもつIAC（国際事業推進室）による長期滞在者向けの支援実施	リサーチレセプションセンター機能をもつIAC（国際事業推進室）による長期滞在者向けの支援実施
OIST研修や海外研修への派遣	OIST研修や海外研修への派遣

先導的な研究力強化の取組みの加速

指標(15)	WPI型ガバナンスの波及
指標(16)	リサーチレセプション機能の全学的展開

短期滞在海外研究者への機器共有

指標⑦	機器共有スキームの全学展開

※ 本事業による取組の効果（他の事業等による影響を受けない）が検証可能である指標

- 学内既存設備の共用化のスキームやリユースの活用
- 新たなURA・研究支援業務の開拓（ヘッドクオーター等の雇用）
- 外国人研究者向けの日本語教室の開催等による支援
- 海外パートナー機関に所属する研究者の中長期的な招聘による研究室立上・運営支援

◀ 学内既存設備の共用化のスキームやリユースの活用

◀ 新たなURA・研究支援業務の開拓（ヘッドクオーター等の雇用）

◀ 外国人研究者向けの日本語教室の開催等による支援

◀ 海外パートナー機関に所属する研究者の中長期的な招聘による研究室立上・運営支援

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

東北大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

（１）事業実施計画

年度			2018	2019	2020	2021	2022	2023
将来構想	事業終了までのアウトカム	中間的なアウトカム	アウトプット					
世界から尊敬される三十傑大学としての優れた研究力	本事業で策定・実施した諸戦略の具現化による研究力の向上	「世界三十傑」構想に基づく全学的URA機能の強化	URA連携協議会の開催					
			スキルアップセミナー、スキル育成コースの実施					
			URAセンターの機能強化に向けた新体制の構築					
			URA認定制度等への対応を踏まえたURA教育・評価制度の見直し					
			部局URAへの分析調査方法の研修等の実施	論文データベースの全学への利用権限拡大及び部局URAへの分析調査方法の研修等の実施				
			シニアURAによる若手URAの指揮・指導・育成の施策と制度設計				シニアURAによる若手URAの指揮・指導・育成	
		指標①スキルアップしたURAによる研究成果の向上			URA資格認定制度の運用開始			
		アンダー・ワン・ルーフ構想に基づく新しい産学連携推進体制の構築	産学官連携活動におけるコーディネーターとしての支援（各産学官連携活動拠点としての東京サイトの運営）					
			シニアURAによる研究企画推進戦略の構築					
			（ＣＳＴＩ、ＳｃｉＲＥＸ、ＧＲＩＰＳ、ＮＩＳＴＥＰ等の）政府官公庁等・企業・ファンディングエージェンシー等との情報交換、企画提言・折衝活動、及び外部資金の獲得や運用のための新たな制度設計					
			研究力の分析、技術動向分析による　研究戦略の立案・提言		研究力の分析、技術動向分析による研究戦略に基づく支援、および産学共創スクエアを活用した重点的な研究戦略の立案・提言			
			技術相談、企業へのスタートアップシーズのアウトリーチ活動					
			大型研究プロジェクト企画提案活動（ムーンショット型研究開発制度、ＣＯＩ－ＳＴＲＥＡＭ、ＯＰＥＲＡ、ＥＤＧＥ－ＮＥＸＴ、ＢＩＰ事業等）		大型研究プロジェクト企画提案活動及び、産学共創スクエアを活用した重点的な活動スキームの確立			
		指標②研究成果の社会実装を加速するための新しい産学連携インフラ整備			産学共創スクエアの本格運用			
			大型科研費等採択率向上を目的とした模擬ヒアリング、若手研究者を対象とした科研費申請書書き方相談、学部・大学院学生を対象とした特別研究員制度説明会等の実施と新たな取組の検討		大型科研費等獲得支援の継続と新たな取組の検討・実施			
			大学発ベンチャー育成、アントレプレナー教育の企画・立案					
			論文執筆セミナー開催、論文コンプライアンス教育セミナー開催					
			URAセンターWEBサイトの運営、内容の検討による広報活動強化					
			ベンチマーク大学の		ベンチマーク校の見直し、重点的な海外ネット			

			調査、研究戦略に沿った新たなベンチマーク大学の設定、海外ネットワーク構築		ワーク構築推進			
			URA 業務支援事務担当国際事務職員配置による国際対応力強化					
	指標(1)	自主財源による URA 配置数					26 名	
	指標(2)	国際共著論文比率					35.0%	
	指標(3)	Top10%論文					1,200 報	
	指標(4)	民間企業等との共同研究数					1,215 件	
	指標(5)	共同研究部門・講座設置数					32 件	
	指標(6)	ライセンス収入					20,000 万円	
	強化された国際コミュニティを活用した国際的研究ステータスの向上		URA 業務支援事務担当国際事務職員配置による国際対応力強化(再掲)					
			知のフォーラムの実施、及びそれを契機とした国際共同研究等のコーディネーターとしての支援					
			シンポジウム及びワークショップ開催					
			知のフォーラムの活動を PR するホームページの更新等による情報発信					
			スポンサー獲得体制や、社会に活動を反映するための仕組み・制度設計（オランダローレンツセンターとの相互訪問を契機とした共同研究や欧州への広報等）				スポンサー獲得推進	
			知のフォーラムの事業運営の評価と助言を行う「知のフォーラム国際アドバイザリーボード」の助言に基づく知のフォーラムの国際公募・採択					
			国際広報の充実（国際広報センター設置、EurekAlert! による情報発信、英語版 Web サイト、研究ニュースの広報等）					
			海外リサーチ・ステーション、国際ジョイントラボ設置推進					
			若手リーダー研究者海外派遣プログラムの実施とフォローアップ調査を踏まえた今後の戦略的実施の検討		若手リーダー研究者海外派遣プログラムの戦略的実施			
		海外拠点を活用した国際共同研究の推進	海外活動を支援するポスドクの確保					
			海外パートナー機関との人的交流の一層の促進					
		指標③ジョイントリサーチセンターでのＰＤ確保			PD3 名以上配置			
	指標(2)（再掲）	国際共著論文比率					35.0%	
	指標(7)	ベンチマーク大学からの受入研究者					200 名（2013-2022 累積値）	
	指標(8)	国際共同・受託研究等契約数					120 件	
	世界のトップ研究拠点に深く食い込む多様性に富んだ若手研究者の増加	学生・若手の研究力強化策の実施	大型科研費等採択率向上を目的とした模擬ヒアリング、若手研究者を対象とした科研費申請書書き方相談の実施と新たな取組の検討（再掲）		学生・若手研究者を対象とした取組の更なる検討・推進			
		指標④学部学生を対象とした特別研究員制度説明会等支援策の開始	説明会・パンフレット作成・配布開始					
		自立的な研究環境の提	学際科学フロンティア研究所に採用された若手研究者の雇用・育成					

		供を前提とした優秀な若手研究者のポスト確保	部局との連携によるテニュアトラック等のキャリアパスの構築の検討	東北大学版テニュアトラック制度の運用による優秀な若手研究者のポスト確保				
		指標⑤東北大学版テニュアトラック制度の開始		制度開始				
			若手リーダー研究者海外派遣プログラムの実施とフォローアップ調査を踏まえた今後の戦略的実施の検討（再掲）	若手リーダー研究者海外派遣プログラムの戦略的実施（再掲）				
			若手研究者武者修行インターンシップの実施					
			ジュニアリサーチプログラムの実施					
			クワトロセミナーの実施					
			女性研究者育成活躍・支援策の企画・提言					
			FALLING WALLS LAB SENDAI、Falling Walls Venture の実施					
	指標(9)	ベンチマーク大学への若手リーダー派遣者数					10 名以上/年間	
	指標(10)	女性研究者比率					19.0%	
	指標(11)	高等研究機構への若手研究者配置数					200 名	
	世界三十傑大学に相応しい教育・研究環境の整備	国際水準キャンパス実現に向けた取り組み	国際対応事務体制の整備・推進					
			事務文書の英語化					
			学内文書日英対訳データベースによる対訳文書の全学共有化の推進					
			リサーチレセプションセンター機能をもつ IAC（国際事業推進室）による長期滞在者向けの支援実施					
		指標⑥国際混住型学生寮の拡充			1,800 人規模			
			OIST 研修や海外研修への派遣					
	指標(12)	外国人教員数					250 名	
	指標(13)	外国人留学生比率(大学院)					25%	
	指標(14)	TOEIC スコア 700 点以上の事務職員等数					179 名	
		短期滞在海外研究者への機器共有	学内既存設備の共用化のスキームやリユースの活用			共用化スキームの全学的展開に資する課題整理		
		指標⑦機器共有スキームの全学展開			AIMR 以外の学内外研究者（短期滞在外国人研究者を含む。）への機器共有開始			
			新たな URA・研究支援業務の開拓（ヘッドクオーター等の雇用）					
			外国人研究者向けの日本語教室の開催等による支援					

		海外パートナー期間に所属する研究者の中長期的な招聘による研究室立上・運営支援						
	指標(15)	WPI型ガバナンスの波及					WPI型ガバナンスのノウハウを確立し、既存の､また新たに設置される研究拠点で実施	
	指標(16)	リサーチレセプション機能の全学的展開					AIMR型リサーチレセプション機能のノウハウを確立	